

近視眼的な判断における現実の喪失

黒田インターナショナル

黒田 毅

現実の把握は、そのすべての情報の収集と分析において正しい為政行動を求める。近視眼的であることは、現実を失う以外不可能なのである。

これら世界への正しい参加であり、自己現実の構築は必ずこの基盤に寄らなくては行けない。

これらは企業において全く同じである。これらは現実の把握が正しく求められ、その計画性は唯一未来を求める選択である。

これらは冷静な判断と決定、感情性でない熟慮における現実の構築が、その永続性における現実を可能とするのである。

これらが正しい国家の舵取りであり、宰相の選択なのである。企業においても全く等しい。

これらは冷徹さにおける現実への対処の肯定を有する。現実の厳しさからの逃避は、勇者の行動でないのである。

これらは未来という現実への正しい選択の手段なのである。

これは為政者と政治家において必ず求められる。歴史はこれを証明するのである。